



銀杏 《 愛校 自主自律 》

～生徒一人一人が主役を果たす、「生徒が育つ学校」の創造～

宮内中学校 学校だより

体育祭！光り輝くさわやかな汗を流して・・・

スローガン「新 ～心を燃やせ～」を掲げ、短期間にもかかわらず全校生が一丸となって創り上げた体育祭が、10月24日（木）に盛大に行われました。赤軍・緑軍・青軍それぞれが絆と団結を深め、競技・応援に全力で挑みました。先輩がリーダーシップを発揮する姿を学び、後輩が競技に臨む先輩を率先して応援したり、BGMに合わせて敵、味方関係なくみんなで声を合わせたりと、成長ぶりがうかがえる様子をたくさん見る事ができました。

競技も二軍の同点優勝、応援も勝敗は決まったものの甲乙つけ難い、質の高い応援でした。一人ひとりが全力で立ち向かう姿には、とても感動しました。この体育祭で流した光り輝く汗と涙は、まさに心を燃やした証であり、一人ひとりの成長の証であったと思います。

令和6年度体育祭

優勝 青軍・緑軍

最優秀応援賞

緑軍



県新人南ブロック大会 宮中健児の誇りをみせる!!

11月の主な予定

- 1日(金)：3年進路説明会
- 5日(火)：テスト前学習会
- 6日(水)：教職員研究発表会のため
給食後下校
- 7日(木)：後期中間テスト
- 8日(金)：宮中祭地域文化体験講座
- 11日(月)：冬時間開始
漆山地区スクールバス運行開始
- 12日(火)：3年実力テスト
- 13日(水)：チャレンジテスト数学
- 14日(木)：先生方の授業研究会のため
給食後下校
- 18日(月)：3年薬物乱用防止教室
- 20日(水)：チャレンジテスト英語
- 21日(木)：生徒会専門委員会
- 26日(火)：生徒会役員選挙
- 27日(水)：南陽市芸術鑑賞教室
※6校時授業抜
- 28日(木)：校内授業研究会
- 29日(木)：全校クラスマッチ

地区新人大会の激戦を勝ち抜いたサッカー部そして女子ソフトテニス部の選手が、10月19日(土)に県新人南ブロック大会に挑みました。それぞれの会場で、熱戦が繰り広げられ、これまでの練習の成果を発揮した大会となりました。残念ながら、上位大会となる県決勝大会への進出は叶いませんでしたが、今後につながる戦いができました。選手の皆さん、大変お疲れさまでした。

サッカー

第1回戦 【対 米沢二中・米沢六中合同チーム】 0-1 惜敗

女子ソフトテニス団体

第1回戦 【対 大江中】 3-0 第2回戦進出

第2回戦 【対 中山中】 0-2 惜敗



東日本実業団駅伝大会での勝利を祈願し、激励してきました

11月3日(日・祝)に、元日のニューイヤー駅伝の予選会となる「東日本実業団駅伝競走大会」が、埼玉県で行われます。



宮中生徒会が事務局を努める南陽市中学校生徒会連絡協議会を代表し、本校生徒会長・副会長で、3校合同の激励ポスターを、NDソフトアスリートクラブの皆さんに手渡してきました。ぜひ、今大会10位以内を達成し、ニューイヤー駅伝出場に向け、精一杯頑張ってくださいと市内全中学生で願っています。

共育ネットワークセミナーが行われました

10月25日(金)の夜に、共育ネットワークセミナー(教育講演会)が行われました。講師に、GAZI工場の原一宣様をお迎えし、インターネットやSNSとの正しい向き合い方や使い方を始め、昨今のトラブルについてご指導をいただきました。便利である反面、被害者にも加害者にもなり得る時代。学校でもご家庭でも、改めてルール作りを確認いただき、相手を傷つけない使い方を確認・実践していきたいものです。



PTAの皆様 冬の環境整備作業 ありがとうございました!

まもなく、冬将軍のたよりもささやかれる時期を迎えました。そんな中、10月26日(土)の早朝より、PTA環境委員会の皆様からご尽力をいただき、冬の環境整備作業を行っていただきました。ピロティの雪囲いとグラウンドのサッカーネットの取り外し、そして、プランターの花の植え替えを和気あいあいと作業していただきました。作業の最後は、教頭先生お得意の「ガオーツ」で締めました。お忙しい中、早朝より大変ありがとうございました。



「校長の独り言・・・」

教員になって初めての修学旅行を引率したのは、平成五年五月のこと。当時は、北海道への修学旅行でした。当時、旅行者さんから、「これが携帯電話です」と預けられた電話。もちろん当時は、今のようなスマホや携帯電話はなく、「へえ」と手にした記憶があります。今のものと比べればとっても大きく、家庭用の固定電話の子機のような感じです。

早速、班ごとに研修に出かけた先々で、その子機のような携帯電話に電話をしてみました。・・・が、全くつながらず、その携帯電話から試しに学校に電話をかけてもつながりません。「まだまだ使い物にならないんだ。しょうがないな。」とあきらめながら、旅行者さんにそのことを告げました。すぐに、業者さんが調べたところ、何と、その電話は、本物の子機だったのです。今では、考えられないような笑い話です。

あれから三十年・・・携帯もスマホも未だに進化し続けています。でも、変わらないのは、自分だけでなく、必ず相手がいるということ。通話だけでなく、ネットやSNS等、今や欠かすことのできないアイテムの一つになりましたが、これを使いこなす延長上には相手の存在があることを、考え・想像することを忘れてはなりません。GAZI工場の原一宣さんも、講演会でお話しされていたこと。改めて、「考えること」そして「想像すること」を、日常生活に生かしていきたいものです。

